

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, キ	2022年度医療費に占める新生物の割合は8.1%であり、年間100万円以上の構成割合も21.2%と高い割合を示している。	➔	・がんの早期発見・早期治療のためにも、被保険者および家族にがん検診を受診してもらい、要精密検査対象者には100%受診してもらえるよう受診勧奨を徹底する。 ・子宮頸がんの予防のためにも26歳～39歳（女性）希望者にはワクチンの補助を行う。 ・がん全般の予防のためにも、禁煙プログラム参加者費用補助を継続する。	✓
2	ア, ウ, オ, カ	・2022年度医療費に占める生活習慣病重症化（心疾患、脳血管疾患）の割合は3.8%であり、年間100万円以上の構成割合も8.6%と高い割合を示している。 ・50歳代から心疾患・脳血管疾患の患者数が急増している。	➔	生活習慣病重症化の早期発見・予防のためにも、50歳と60歳の方には脳ドックを受診してもらい、脳梗塞などの早期発見・予防のために受診および生活習慣改善に努めてもらう。	✓
3	ア, イ, ウ, エ, カ	・2022年度医療費に占める生活習慣病基礎疾患（高血圧症、糖尿病、脂質異常症）の割合は7.2%であり、年間100万円以上の構成割合も2.8%と高い割合を示している。 ・40歳代から高血圧症・糖尿病・脂質異常症の患者数が増加している。	➔	・生活習慣病基礎疾患の予防のためにも、健診結果から組合員の生活習慣病についてのリスク分布について分析し、血糖値が高い方には尿中アルブミン検査を受診してもらい、希望者に限定して保健指導プログラムを二か月間受けてもらう。 ・血糖値が高く、2年間歯科医を未受診の方に歯周病点検実施。	✓

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	・被保険者及び家族の男女ともに40歳・50歳代の年齢層に一定の人数層がある。 ・扶養率は1.02と健保平均より高い。	➔	・被保険者を通じての家族への健康意識を様々な方法により向上させる。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	・特定保健指導受診者が2021年度は52.5%であり、全健保組合平均の30.7%と比較して大きく上回っている。 ・女性被保険者の婦人科検診の受診率が2021年度は乳がん検査51.8%と5割を上回ったが、子宮頸がん検査は42.1%で5割を下回っている。 ・栗田健保の実施する被扶養者の特定健診受診率が2021年度は64.1%であり、全健保組合平均の46.1%と比較して大きく上回っている。	➔	・各事業所（会社と大規模拠点）と健保が協力・支援を行うことにより連携を引き続き活性化する必要がある。